

# JFTP NEWS

Japan's Friendship Ties Programs



## FUTURE FEMALE LEADERS



特集

未来の女性リーダーたち

2025  
03

01. JENESYS 2.0 2013参加者 ジャハン・エシュラットさん (バングラデシュ)
02. MIRAI 2022参加者 マリアム・フセインさん (イギリス)
03. JENESYS ASEAN 2023参加者 チャンレアクスメイ・ロイさん (カンボジア)

【JFTP PRESS】

カンボジア副首相もJENESYS同窓生

ISSUE  
15  
No



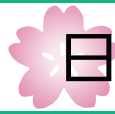
バングラデシュ

# ジャハン・エシュラットさん

Jahan Eshrat

JENESYS

- ・ 法務・司法・議会省 法務・司法部 上級判事補
- ・ 2013年度 JENESYS2.0参加者
- ・ 参加当時：大学生



## 日本で学んだ法の知識を現場で活かす

### 誰もが安心できる国、日本

JENESYSは、海外渡航が初めてだった私にとって、人生を変える経験となりました。様々な国からの参加者との交流は、私の視野を大きく広げ、海外留学や自己成長の意欲を強く呼び起こしてくれました。

JENESYSで感じた日本の特徴的な印象の一つは、治安の良さでした。たった10日間程度の滞在でしたが、私のようなアジアの女性に限らず、誰もが安心して過ごせる国だとわかりました。他国では周囲にどう思われるかを気にする必要があるかもしれませんが、日本ではそうした心配なく、心地よく過ごすことができました。

### 期待以上の日本留学の日々

社会人となり法曹界で働く中で、私は日本政府の人材育成奨学計画 (JDS) を知りました。JENESYSで日本の居心地の良さを知って以来、また日本に戻りたいと思っていたこともあり、JDSでの留学を決意。2022年から2年間で、慶應義塾大学大学院法務研究科で学ぶ機会を得ました。



留学生活は期待以上の充実感がありました。ドイツ、アメリカ、フランスなど、世界各国から集まった学生や教授陣との交流を通じて、日本にしながらグローバルな視点で法制度を学ぶことができました。

私の研究テーマは「刑事司法制度における裁判外紛争解決手続 (ADR) を通じた司法へのアクセス：課題と展望」でした。バングラデシュでは現在、民事事件でのみ認められているADRの刑事事件への適用可能性について、日本をはじめとする各国の法制度を参考に研究を進めました。この論文は2024年度法務研究科の最優秀英語論文に選ばれ、その成果は実務やバングラデシュの他の法曹関係者との共有に活かせるものになりました。

### 女性初の司法トップを目指して

JENESYSでの思い出の一つに、日本の伝統的な茶道体験があります。一瞬一瞬を大切に作る茶道の精神から、人の内面的な美しさについて深い学びを得ました。現在、上級判事補として裁判に携わる中で、この経験を活かし、関係者の声に敬意を持って耳を傾けることを心がけています。

私の夢は、バングラデシュで女性初の最高裁判所長官になることです。この国ではこれまで女性が司法のトップに立った例はありませんが、経済状況に関わらず、誰もが利用しやすい司法サービスをバングラデシュで実現することを目指しています。





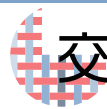
イギリス

# マリアム・フセインさん

Mariam Hussein



- On the Beach ソフトウェアエンジニア / Code First Girls アンバサダー
- 2022年度 MIRAI参加者（経済・ビジネス・グリーン）
- 参加当時：社会人



## 交流の大切さを伝えていきたい

### 人前で話す自信をくれた経験

私は大学院でアジアのビジネスを学ぶ中で、日本の労働組合に興味を持ちました。MIRAIを知った時は「自分の目で日本を見るチャンスだ!」と思い、すぐに応募しました。プログラムでは東京や大阪の企業・団体を訪問し、日本のビジネスについて様々な講義を受講できました。

最も印象に残っているのは、成果報告会での出来事です。外務省を訪れ、高木啓外務大臣政務官（当時）の前でスピーチする機会をいただきました。普段はなかなかお会いできない要人の前でプレゼンテーションし、人前で話す自信をつけることができました。「こんなに偉い方の前で話せたのだから、これからは誰の前でも話せるはず」という確信は、その後の人生で大きな財産となりました。

### キャリア構築を伝える"大使"として

2024年、私はイギリスの将来有望な女性リーダーに贈られる「Rising Star Awards」のテクノロジー部門を受賞しました。この賞は、様々な業界で活躍する管理職未満の女性100人を毎年表彰するものです。現在、私はソフトウェアエンジニアとして働いていますが、コーディングのスキルは大学院卒業後に独学で習得しました。

その経験を活かし、「Code First Girls アンバサダー」として、プログラミング教育が女性にとって身近になるよう力を注いで活動しています。大学や企業で私自身の経験を講演したり、女性向けイベントを主催したりするなど、幅広い活動を行っています。

MIRAIでの経験が、こうした公の場で話す活動に大きな自信を与えてくれました。また、参加者同士が夢や目標を励まし合うMIRAIのコミュニティでの体験から、女性同士でキャリアについて話し合うコミュニティづくりにも取り組んでいます。



▲Code First Girls アンバサダーのイベント

### マンチェスターと日本の架け橋に

MIRAIに参加した後も、日本との縁は続いています。2023年秋には大阪青年会議所の「TOYPプログラム」に参加し、再び日本を訪れることができました。私の故郷マンチェスターは「東洋のマンチェスター」と呼ばれる大阪と歴史的なつながりがあり、大阪の活気ある商業の現場を見学して深い親近感を覚えました。プログラムでは寛仁親王妃信子さまとお会いする貴重な機会もありました。信子さまのイギリス留学経験や日本の若者が様々なビジネススキルを身に着けることの重要性についてお話を伺うことができました。

また、2024年6月には大阪市長のマンチェスター表敬訪問の手伝いをするなど、日本関連のイベントにも積極的に関わっています。今後もマンチェスターと日本の交流の重要性を広く発信し、つながりを深めることに貢献していきたいと考えています。



▲高木外務大臣政務官にプログラム成果を報告したMIRAI参加者（外務省提供）



# チャンレアクスメイ・ロイさん

JENESYS

カンボジア

Chanreaksmey Loy

- ・ ミス・インターナショナル世界大会2024 カンボジア代表
- ・ 2023年度 JENESYS参加者  
(日本ASEAN友好協力50周年記念認定事業 日本・ASEAN学生会議)
- ・ 参加当時：社会人

## 国際的な舞台で日本を経験



### 国の首相夫人との貴重な出会い

私が参加したJENESYSは、日本とASEANの友好協力50周年を記念した特別プログラムでした。プログラム中、岸田裕子内閣総理大臣夫人(当時)と各国首脳配偶者との懇談会が開催され、私たちはファーストレディの方々とお話する貴重な機会に恵まれました。特に印象深かったのは、カンボジアのペイツ・チャンモニー首相夫人との出会いです。

夫人は、国を代表してJENESYSに参加した若者たちの学びに深い関心を示され、私たちの体験や気づきに熱心に耳を傾けてくださいました。自国の首相夫人と直接対話できる機会なんて滅多にありません。生涯忘れられない素晴らしい経験となりました。

### ミス・インターナショナルで再来日

JENESYSの翌年、私は「ミス・インターナショナル世界大会2024」にカンボジア代表として出場する機会を得ました。日本の団体が主催するこの大会は東京で開催されます。



◀ミス・インターナショナル世界大会でカンボジアの伝統衣装姿を披露したロイさん

岸田総理夫人と各国首脳配偶者がJENESYS参加者と交流した懇談会(ロイさんは後列左から3人目)

JENESYSで日本の文化や食事、そして人々との出会いに魅了されていた私にとって、より大きな国際舞台で母国代表として再び日本を訪られたことは、夢のようでした。世界大会では観光プロモーションの一環として新潟県や福島県を訪問し、JENESYSとはまた異なる日本の魅力を発見することができました。私が代表に選ばれたのは、以前にJENESYSを経験したことが大きな役割を果たしたのではないかと考えています。

### 日本への興味をキャリアに活かす

JENESYSでは5つの課題別グループに分かれて日本各地を視察しました。私は「インターネット・AI」をテーマとする班に所属しました。ファッションデザインを学んでいた私にとって、業界のデジタル化の観点から、このテーマは非常に有意義なものでした。そこで得た知識は、現在も様々な場面で活用しています。

現在は企業に勤務していますが、将来はファッションデザインの専門性を活かしたビジネスの展開を目指しています。これまでも、学生時代の友人とインドネシアの文化を取り入れたコレクションを2022年にパリ・ファッションウィークで発表する機会がありました。今後は日本の文化や伝統をより深く学び、それらにインスピレーションを得た新たなコレクションの制作に挑戦したいと考えています。



## ～ 世界で活躍する同窓生 ～ カンボジア副首相もJENESYS同窓生

2024年10月、JICEカンボジア事務所（プノンペン）から、「サイ・サムオル副首相がJENESYS同窓生ではないか」との情報提供がありました。

この情報は、人材育成奨学計画（JDS）留学生の業務を行う同事務所が、JDS帰国留学生と交流する中で判明しました。JICEが過去の報告書を精査したところ、サイ・サムオル副首相は2011年6月19日～25日に実施されたJENESYS「メコン5か国若手外交関係者招へい」プログラムに参加されていたことが確認できました。当時のプログラムでは、外務省やJICAへの訪問のほか、滋賀県日野町でのホームステイも体験されています。

現在、サイ・サムオル副首相はカンボジアの国土整備都市計画建設大臣も務めておられます。2024年2月に来日した際には、柘植芳文外務副大臣（当時）との夕食会にも出席されました。

柘植外務副大臣主催のサイ・サムオル・カンボジア副首相兼国土整備都市計画建設大臣との夕食会▶

JENESYS同窓生が政府の要職に就くことは、日本と諸外国の関係のさらなる発展をもたらすかもしれません。JICEは今後もJENESYS同窓生の活躍の発掘に注力してまいります。



※出典：外務省ホームページ [https://www.mofa.go.jp/mofaj/s\\_sa/sea1/kh/pageit\\_000001\\_00345.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/s_sa/sea1/kh/pageit_000001_00345.html)

## 編集後記 - Editor's Note-

## 「JFTP News」制作こぼれ話

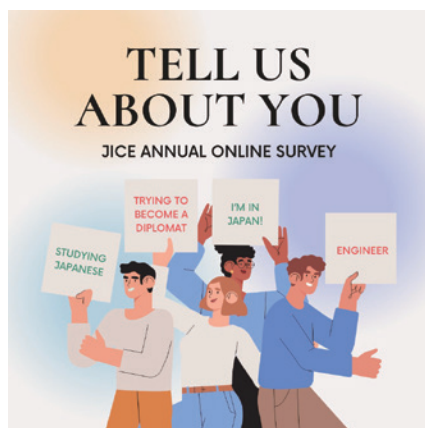
いまご覧いただいている「JFTP News」を発行するまでには、多くのプロセスがあります。今回はその一部をご紹介します！

まずは取材を受けてくれる同窓生探し。

①JICEが行う同窓生を対象とした年次アンケート、②JICE職員同士で情報交換、③JICEコーディネーターからの情報提供、④SNSなどから情報を集めます。時には同窓生から他の同窓生の活躍を教えてください方もあります。

取材候補者を決めたら、取材依頼を送ります。ただ、取材は無償で受けてもらうため、インタビューの時間は同窓生にとってはいわば“ボランティア”。それでも「このプログラムに感謝している。ぜひ協力したい!」と、うれしい返事もらえることもあります。こうした同窓生の皆さんの協力にはJICE一同、感謝してもきれません。

次回は、実際の取材についてお話しします。次号の「JFTP News」もお楽しみに!



▲2024年度年次アンケート  
メールやSNSなどで回答を呼びかけました



一般財団法人日本国際協力センター（JICE）は、主に日本国政府や地方自治体、企業からの依頼に応じ、世界各国の社会開発課題に資する人材育成のお手伝いや日本についての理解を促進する事業を展開しています。

JFTP News 第15号 2025年3月25日発行

編集・発行：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）国際交流部  
EMAIL：kokusaikoryu@jice.org

JICEについて詳細はHPをご覧ください。  
<https://www.jice.org>

●本誌掲載の記事、写真などの無断転載を禁じます。  
©2025 JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION CENTER

